

神戸大学附属図書館
第2回常設展

近代神戸の 源流を訪ねて

鈴木商店とマッチ産業の盛衰 -

展示品目録



鈴木商店本店(大正5年頃)



マッチラベル商標

2008年2月15日(金)～6月20日(金)

社会科学系図書館 2階常設展示コーナー

1. 神戸発祥の総合商社 鈴木商店の歩み

総合商社として数奇な運命をたどった鈴木商店の出発点は1874（明治7）年に鈴木岩次郎（初代）が居留地海岸通で創業した洋糖輸入業にありました。その後、鈴木商店の業務は華々しい多角化を遂げ、第一次世界大戦の戦時景気で、国内外の支店70余、関連企業約80社と成長します。しかし、大戦後の不況が本格化すると鈴木商店の経営は一気に苦しくなり、1927（昭和2）年の金融恐慌の中、破綻を余儀なくされました。



『英和商工人名録』表紙と本文（鈴木商店本店）

番号	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	鈴木商店関係者肖像	写真	1960(昭和35)年 『播磨造船所50年史』 (播磨造船所)	昭和2年の破綻によって鈴木商店の名前は消えたが、いくつかの関係会社は独立・合併等で形を変えて、現代まで続いている。『(株)播磨造船所』(現在は合併・社名変更により株式会社IH)もその一つで、昭和35年発行の社史(本書)では、旧役員として鈴木商店関係者の写真を掲載している。	国際文化学図書館
1-2	『英和商工人名録』に見られる鈴木商店	記事	1918(大正7)年 (The Far Eastern Advertising Agency)	本書は、海外貿易に関する一般商工業者を網羅的に紹介する参考書として、世界に向け刊行された。鈴木商店の取り扱い品として、樟脳、精製魚油を挙げ、帝国麦酒の代理店であると記している。パネル展示中の鈴木商店本店の写真も本書に拠っている。	社会科学系図書館
1-3	鈴木系事業会社一覧	記事	1928(昭和3)年 『朝日経済年史』 (朝日新聞社)	昭和2年の財政経済状況を概観する本書では、同年4月に破綻した鈴木商店についても大きく取り上げ、破綻時の主な関連事業会社一覧を掲載している。『朝日経済年史』はこの昭和3年版が最初の刊行であった。	海事科学分館
1-4	『鈴木商報』(大正3年8月)	記事	1914(大正3)年 鈴木商店	鈴木商店が月3回「7」の付く日に発行していた情報紙で、珍しい資料である。ほとんどの号で、砂糖に関する記事が多くを占めている。展示している号は第一次世界大戦開戦を受けたもので、「ブラッセル砂糖同盟の崩壊」等により、砂糖が騰貴するとの見通しが述べられている。	社会科学系図書館
1-5	『米価問題と鈴木商店』	記事	1918(大正7)年 鈴木商店	米騒動による焼き打ち事件後、鈴木商店が米価調節問題における自らの位置を述べ、買占め等の風評の誤りを主張した冊子。明記はないが、神戸高商出身の永井幸太郎が著したといわれる。	社会科学系図書館
1-6	『経済野話』(金子直吉著)	記事	1924(大正13)年 (巖松堂東京)	金子直吉が自著『経済野話』に自筆署名をしたものが当館に所蔵されている。『経済野話』は金融政策論や貿易論から国字問題まで幅広く随想風に論じた図書。	人間科学図書館
1-7	『金子直吉伝』	記事	1950(昭和25)年 (金子柳田両翁顕彰会)	本書は上巻『金子直吉伝』、下巻『柳田富士松伝』として刊行され、旧鈴木関係者に頒布されたものである。序文は、金子柳田両翁顕徳会の発起人である高畑誠一、口絵は小磯良平が描いた肖像画の写真。	人間科学図書館
	『柳田富士松伝』	記事			



『鈴木商報』先頭頁、最終頁



小麦粉広告
『鈴木商報』抜粋

ビール広告
『鈴木商報』抜粋



樟脳会社商標
『精製樟脳史』抜粋

パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
鈴木商店のルーツ	記事	1923(大正12)年 『神戸新聞』大正12年7月12日号	デジタル版新聞記事文庫
神戸製鋼所本工場全景	写真	1924(大正13)年 『神戸市工業概況』(神戸市役所商工課)	国際文化学図書館
営業品目及び工場・出張所	記事	1910(明治43年) 『鈴木商報』第25号	社会科学系図書館

パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
小麦粉広告	記事	1912(明治45年) 『鈴木商報』第64号	社会科学系図書館
麦酒広告	記事	1913(大正2年) 『鈴木商報』第126号	社会科学系図書館
鈴木商店本店(大正五年頃)	写真	1918(大正7年) 『The Japan mercantile and manufacturers directory』第参版	社会科学系図書館
天下三分の書(抜粋)	記事	1950(昭和25年) 『金子直吉伝』(金子柳田両翁頌徳会)	人間科学図書館
麦酒広告	記事	1915(大正4年) 『鈴木商報』第190号	社会科学系図書館
麦酒広告	記事	1915(大正4年) 『鈴木商報』第195号	社会科学系図書館
日本樟脳株式会社製品商標	図版	1938(昭和13)年 『精製樟脳史』日本樟脳(神戸)	社会科学系図書館
日米船鉄交換同盟における一幕	写真	1920(大正9年) 『日米船鉄交換同盟史』(日米船鉄交換同盟会編)	社会科学系図書館
鈴木商店焼き討ち関連記事	記事	1918(大正7年) 大阪朝日新聞、大正7年8月14日号	デジタル版新聞記事文庫
	記事	1918(大正7年) 『神戸又新日報』(マイクロフィルム版)大正7年8月14日号	人文科学図書館
見出しにみる鈴木商店破綻	記事	1927(昭和2年) 『国民新聞』昭和2年1月9日号	デジタル版新聞記事文庫
	記事	1927(昭和2年) 『大阪朝日新聞』昭和2年4月2日号	デジタル版新聞記事文庫
	記事	1927(昭和2年) 『東京朝日新聞』昭和2年4月2日号夕刊	社会科学系図書館
	記事	1927(昭和2年) 『大阪朝日新聞』昭和2年4月6日号	デジタル版新聞記事文庫
	記事	1927(昭和2年) 『東京朝日新聞』昭和2年4月29日号	社会科学系図書館

2. 神戸のマッチ産業

西洋文明とともに輸入品として到来したマッチ(燐寸)はほどなく国内で製造されるようになり、1880年ごろには一転して輸出品となりました。その国内最大の生産地が神戸であり、明治・大正期を通じて神戸港貿易にも重要な位置を占めています。神戸におけるマッチ工場の始まりは神戸監獄だったと言われていますが、現在の兵庫区を中心に多くのマッチ工場が稼働するようになりました。



『燐寸商標史』表紙と本文

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1	瀧川辨三、備作肖像・記事	記事	1911(明治44)年 『現代兵庫県人物誌』(田住豊四郎編)県友社(神戸)	瀧川辨三は1851(嘉永4)年山口県生まれ、電信技師からマッチ産業に転身した。1925(大正14)年死去。梶岡備作は1874(明治7)年奈良県生まれ、明治31年に瀧川家長女と結婚し、マッチ製造業に従事する。1963(昭和38)年死去。	人間科学図書館
2-2	燐寸輸出盛衰比較表(明治11-32年)	グラフ	1901(明治34)年 『坂神輸出燐寸業調査報告』高等商業学校(東京)	マッチ輸出状況が端的にわかるグラフ。1883-84(明治16-17)年に粗製乱造が問題化していったん落ち込むが、その後は急速に伸張。	社会科学系図書館
2-3	日本マッチ輸出の傾向(明治34-40年)	記事	1963(昭和38)年 『日本のマッチ工業と瀧川備作翁』(横田健一著)日本のマッチ工業と瀧川備作翁刊行会	展示のページは日本マッチ輸出の傾向と会社別輸出額を表す。当時減少に転じてきた輸出マッチ業の不振を打開する策は会社の合同しかなかった。	社会科学系図書館
2-4	燐寸業(神戸市工業調査)	記事	1903(明治36)年 『勤業彙報1号』神戸市役所	明治10年ごろから約25年間の神戸燐寸業の推移がコンパクトに述べられている。	社会科学系図書館
2-5	日本マッチ工業における労働の性格形成「手工業性」と「マッチ女工型」	記事	1962(昭和37)年 『マッチ工業構造論』(藤井茂編)神戸市役所	明治以降のマッチ労働の性格形成過程と変転、労働の現状を雇用・賃金その他の労働条件に分けて明らかにし、問題点について書かれている。	国際文化学図書館
2-6	燐寸工場の労働事情調査(明治34年調査)	記事	1903(明治36)年 『燐寸職事情』農商務省	岩波文庫『職事情』でも入手できる著名な調査である。展示のページでは、女性・子供の労働者が非常に多かったことが書かれている。	社会科学系図書館
2-7	燐寸工場作業風景	写真	1914(大正3)年 『神戸市工業概況』神戸市役所	瀧川、直木など工場での作業風景。マッチ製造は、軸木配列、頭葉付け、箱詰、商標張り、摩擦面調整等の工程からなり女性の姿が多く写っている。	社会科学系図書館
		写真	1903(明治36)年 『実業の誉』兵庫県庁		人間科学図書館
		写真	1926(大正15年) 『燐寸油脂蠟類及其製品二關スル調査』(鐵道省運輸局)		社会科学系図書館

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-8	マッチ工業労働者年齢別調査	記事	1995(平成7年) 『労働者生活調査資料集成:5』(中川清編)青史社	近代日本の労働者1920-1930(大正9-19年)の調査において、マッチ工場の労働者年齢が非常に低かったことが書かれている。	社会科学系図書館
2-9	『燐寸商標史』(喜多紫雲著)	記事	1914(大正3)年 熊谷久栄堂	明治期に神戸を代表する出版社だった熊谷久栄堂の刊行図書で、神戸新聞連載記事をもとにしたもの。当時既に収集家も多かったようで、商標の実物大を貼り付けた造りである。商標ラベルはマッチ製造・輸出にとって非常に重要なもので、模倣問題もしばしば起こっている。	社会科学系図書館



直木政之介のマッチ商標



瀧川本店のマッチ商標



瀧川中道マッチ工場
『実業の誉』より抜粋

パネル名	種類	発行年、出典資料	所蔵館
黄燐マッチと安全マッチ	記事	Web版『日本大百科全書』(小学館)	附属図書館
瀧川中道燐寸工場	写真	1903(明治36)年 『実業の誉』	人間科学図書館
マッチラベル(商標)の歴史	記事	1913(大正2)年~1914(大正3)年 『燐寸商標史』、『新聞記事文庫』より	デジタル版新聞記事文庫
良燐合資会社の工場と広告	広告	1903(明治36)年 『日本のマッチ工業と瀧川儀作翁』	社会科学系図書館
類似商法登録の取消請求	記事	1885(明治22)年 『燐寸商標史』	社会科学系図書館
マッチラベル(商標)の歴史	記事	1913(大正2)年~1914(大正3)年 『燐寸商標史』、『新聞記事文庫』より	デジタル版新聞記事文庫
『直木政之介』の商標	記事	1903(明治36)年	社会科学系図書館
『滝川本店』の商標	記事	『日本のマッチ工業と瀧川儀作翁』	社会科学系図書館
黄燐燐寸製造禁止	記事	1922(大正11)年 『黄燐燐寸ノ製造禁止』臨時平和条約事務局編	社会科学系図書館
スウェーデンマッチ系の国際燐寸が日本燐寸株の過半数を取り、支配下に置く	記事	1924(大正13)年 『新聞記事文庫』より	デジタル版新聞記事文庫
『燐寸商標史』の新聞記事	記事	1913(大正2)年~1914(大正3)年 『新聞記事文庫』より	デジタル版新聞記事文庫

新聞記事文庫について

新聞記事文庫は、1912(明治45)年から60年以上にわたり営々と積み上げられた新聞記事切抜資料で、切抜帳にして約3,200冊、記事数は50万件以上という膨大なものです。旧植民地発行紙を含む多数の新聞を採録対象とし、専門家による選択・分類を経て切り抜いているのが特徴です。特に戦前期(記事数約40万件)においては、同種の事業が満鉄調査部の他になく、満鉄のものが失われた現在では非常に貴重なものといえます。神戸大学附属図書館では1999(平成11)年より、この貴重な資料をより多くの方に役立てていただくため、「デジタル版新聞記事文庫」事業に取り組んでいます。来学されなくともどこからでもアクセスできますし、記事見出しや本文中の語句から探すことも可能になり検索性能が大幅に高まりました。

本展示会では、鈴木商店とマッチ産業の記事を抜粋して展示しています。

その他の「デジタル版新聞記事文庫」は、

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html>

でご覧頂けます。

デジタル版新聞記事文庫ホームページ

